

実証！「地域力」醸成プログラム報告書

出雲市鳶巣コミュニティセンター

1 鳶巣コミュニティセンターの概要

鳶巣地区は、出雲市の中心から北部に位置し、北山を背景とした自然と文化的財産に大変恵まれた、のどかな地区である。

北山麓の南斜面に細長く住宅が点在し、世帯数440戸、人口1,575人、高齢化率27%と例外なく高齢化が大変進んだ地区であるが、独居高齢者、高齢者夫婦世帯が増えつつある中で、0～3歳の乳幼児が増えつつあり大変喜ばしい現状にある。

鳶巣コミュニティセンターは、昭和28年1月出雲市公民館 鳶巣分館として設置され、平成14年、公民館をコミュニティセンターに名称変更され、生涯学習を展開するとともに、地域の人づくり、まちづくりを推進するために、地域交流活動拠点として、「健康と福祉、文化とスポーツのまちづくり」を目標に掲げ地区あげて様々な課題に取り組んでいる。

2 事業の概要

(1) はじめに

- ①実証事業名 実証！「地域力」醸成プログラム事業
- ②実証事業のテーマ 縁 ∞ 絆 協働によるまちづくり～はじめの一步～
- ③事業のねらい

鳶巣地区は、特にボランティア活動、青少年育成活動に力を入れて取り組んだ結果、ボランティアに参加する人々が大変増加し、活動も活発に行われるようになった。

自主活動団体も誕生しコミュニティセンター事業をとおして、地区内外で沢山の縁が深まり、絆が大変強まっているが、例外なく地区の高齢化が進み、熱心にボランティア活動に参加された世代が高齢化しつつある。

特に体力的な活動についてはボランティアの参加に無理な面が生じてきた。

そこで、特定のボランティアスタッフの体力的な負担を軽減するため、地区内のボランティアに頼るだけでなく、さまざまな団体や地区外のコミュニティセンターや行政との協働事業が大切と考える。

一人ひとりが「鳶巣のまちづくりの主演」となり、命、仕事、暮らしが輝くまちづくりを目指し地区の地域力をさらに深め、地域の拠点であるコミュニティセンター事業をとおして、「協働のまちづくり」を推進することをねらいとする。

(2) 具体的な取組（内容、活動状況 等）

①協働

はじめの一步準備委員会で各種団体長、コミュニティセンター事業部員に対して事業内容の説明会を行い、協働のまちづくり推進への第一歩を進めた。 87人

ア 「たっぷり笑って 少し考えて～言葉の重み～」人権・同和教育講演会

人権・同和教育講演会を落語家である、桂 枝女太枝氏を迎え、自身の差別を受けた体験や活動をとおして言葉の持つ意味、言葉の果たす役割などについて笑いを交えながら学んだ。

人権と聞いて難しさや、戸惑いを感じてしまうことがあるかもしれないが、言葉

は使い方によって、時には人を勇気づけることもあるが、人を傷つけてしまう怖さもある。気持の中に思いやりがなければ、どんな言葉でも人を傷つけると桂枝女太氏の話に、一人ひとりが言葉の大切さを感じ、相手を思いやるのが、笑いながら楽しめる会話につながるのだと改めて感じられる意味のある講演会となった。

65人

イ ミニ生命のメッセージ展・映画上映会開催

今日までとても幸せに暮らしてきた人々が、理不尽な亡くなり方をした等身大パネル26名と向き合い、他人事ではなく、とても身近なこととして、亡くなった人々の声なき声・願いをたくさんの方が自身の胸に受けとめた。

そして、メッセンジャーからの生命のメッセージをとおして「命を尊ぶ心」を一人ひとりが考え、生命の大切さを家庭・学校・職場・地域で考えるきっかけとなったばかりでなく、沢山の学校へと事業が繋がれていった。

この事業は、協働パートナーである、島根被害者サポートセンターの力は偉大で、お陰で広報等が新聞、テレビ報道をとおして広く島根県内に周知された。

コミュニティセンターだけでは到底出来なかった事業だが、協働という素晴らしいパートナーの協力のもと、一週間に及ぶロングラン事業が大成功に終了することが出来た。

総人数1000人



ウ ほたるまつり開催

初めての試行錯誤の中でのほたるまつり開催だったが、協働パートナーである鳶巣環境保全協議会と近隣町内の全面協力のもと盛大に開催された。

前年度より、ニナ貝の飼育をし、ほたるの生態を学び、ほたるまつり開催予定の川へ放し、川を浄化する活動からほたるまつりへと繋がった。

ほたるの飼育をとおして、年間をとおした命の尊さを学ぶことが出来、ふるさとの川をきれいにする環境活動へと繋がられたことは大きな収穫のあった事業である。

大好きなふるさと鳶巣をみんなで守ろうという心が育まれた事業で、更に次年度へ繋がる事業となった。

200人

エ 夏の鳶巣まつり

鳶巣の一大イベントである「夏の鳶巣まつり」に、BSSアナウンサーで、山陰の自称「協働応援団長」である、すやまとしお氏・中岡みずえ氏を迎えた約5時間。総合司会、歌、トークで夏の鳶巣まつりは大変盛りあがった。

特に、二人のトークから、鳶巣地区の人々のすばらしさ、団結力のすごさが語られたことで、参加者に広く協働の持つ意味、ふるさと鳶巣のすばらしさを周知することが出来た事業だった。

協働で繋がった人々のブースもあり、地区内だけでなく平田、大社地区からの参加もあり、ねらいどおりに運営自体がスタッフに無理がかからず楽しんでもらうこ

とが出来た。

鳶巣は400戸余りの小さな地区だが、人々のふるさとを思う気持ちが、より祭りを熱く盛り上げ、次年度へと繋がる大きなイベントとなった。 1200人

オ トイレ掃除に学ぶ 出雲第三中学校へトイレ掃除

トイレ掃除講習会 100 回目の活動を出雲第三中学校で開催。

最初、素手でトイレに手を入れることに大変抵抗があったが、ただただ懸命にトイレを磨き、協力しあい、無我夢中でトイレと向き合い、磨き綺麗になったトイレを見て何とも言えない感動と清しい気持ちになった。

トイレ掃除をとおして大変よいご縁をいただき、実践をとおして自分の心磨きが出来、参加者に大変喜ばれた事業。協働パートナー日本トイレ掃除に学ぶ会の協力のお陰で成功した事業。 58人

カ 秋の鳶巣まつり

協働事業の集大成として開催した秋の鳶巣まつり。

さまざまな部門が今までの協働事業で繋がり、大成功で2日間の幕を閉じた。

特に生命のメッセージ展で繋がった「ぐるぐるアート」のコーナーでは、地区内外の中学生がボランティアスタッフとして大活躍。沢山のありがたい感謝の文字の最後は、「ありがとう 鳶巣コミュニティセンター」と書かれ、「将来は、鳶巣コミュニティセンターで働きたい」との言葉に大変感動した。

その後も、中学生との交流は続き、新たに育まれた絆を大切にしたい。中学生の心の種がいつか花を咲かせる日がくるよう、今後も縁を大切にしていきたい。

延1200人



キ ふれあい交流音楽会

地区内の動的教室活動の発表に併せ、川跡地区の小学生、湖陵地区のコーラスとの地区交流を取り入れた「ふれあい音楽会」を開催した。

司会進行は、鳶巣地区の元気な小学生4人。フィナーレで、4人が感謝の気持ちを込めて歌った♪いのちの歌は、来場者すべてに感動を与えた。鳶巣の未来を担う子どもたちは、今後、ふるさと鳶巣のすばらしさ、想いをしっかり伝えてくれることと思う。 350人

ク コミュニティセンター 清掃（追加事業）

年末、アリーナを使用する団体にお願いし、コミュニティセンターの大掃除を行った。アリーナを使用する小学生から高校生、壮年期の方々、参加者168名。こちらの想定外の人数だった。

沢山のさまざまな技を持った方々のお陰で、職員だけでは到底出来ない場所の清掃をいとも簡単に実行してもらえたことは、驚きと感動だった。

終了後、地元の鹿肉の燻製を試食してもらい、地元の特産をPRするとともに、燻製に対するアドバイスもいただき、今後の事業に参考となった。食をとおして初めての交流をし、コミュニティセンターが目指す事業への想いも話すことが出来、次年度の事業参加へと繋げることが出来た。

③はじめの一步実行委員会～報告会 DVD上映

事業報告のためのDVDを作成し、はじめの一步実行委員会で報告会を行う。

④事業報告 新聞発行 地区内外 1,000 枚配布

実証！「地域力」醸成プログラム事業報告の新聞を発行し、地区内外へ広報する。

3 事業の成果の課題

- (1) コミュニティセンター事業をとおして、すべての事業が「協働」というテーマのもとに沢山の協働パートナーと繋がり、協働のまちづくりを推進することが出来た。
- (2) 協働で繋がった方々が、次年度事業を共にやろうと声かけをいただき、次年度事業が早い段階で決まり、早い段階で協働事業の成果が表れた。
- (3) 事業の協力お願いに際し、初めの一步は信頼関係を築くことだったが、地区外の方への声かけを、コミュニティセンター事業をとおしてふれあい、交流することで、一番大切な[心で繋がる]ことが出来、手と手をつなぐ初めの一步踏み出すことで、「1 + 1 = 3 以上」の相乗効果となった。
- (4) さまざまな事業をとおして日本文化の伝承、環境問題、聴くこと、想像力を発達させることの大切さから命の大切さ、尊さを学ぶことが出来、世代をとおして心を育成し、ふるさと鳶巣を愛する人々が確実に多くなった。
- (5) 協働事業をPRすることで、地区内外だけでなく、県内各地でも絆を深めることが出来た。
- (6) 生命の大切さを訴える事業を展開しているが、島根県の自殺者数は、毎年200人以上。交通事故死亡者の4～5倍の方が自ら命を絶っている。出雲市も例外ではなく増え、青少年や若年の自殺、うつ病が大変増加している現状にある。また、児童虐待、DVの問題も出雲市は表にでないが、大変多い現状にある。
鳶巣コミュニティセンターが果たすべき役割は、地域づくりの活動拠点として、人々が心身共に健康で、一人ひとりが生涯を通じて生き生きと学び、その成果を生かし、住み良い地域社会づくりを進めることが一番の課題だと考える。

4 今後の方向性

コミュニティセンター事業はすべてボランティアの協力により成り立ち、支えられている。協働のまちづくりをとおして、一人ひとりが「鳶巣のまちづくりの主役」となり、命、仕事、暮らしが輝くまちづくりを目指し、地区の地域力をさらに深めたい。

人口1500人の小さな地区からの発信だが、小さな思いも集まれば大きな力となり、地域と学校、さまざまな各種団体との協働事業でよりコミュニティセンターの果たすべき役割を強め、コミュニティセンター事業を活かした「地域力」の向上と命の大切さを伝え、真の心の強さ、育成へと繋げたい。